

景気回復を背景に、 上昇が期待される新興国株式

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

新興国株式は昨年以降、先進国株式と比較して、堅調な推移が続いています。

その背景には、世界最大の経済規模を誇る米国の景気回復や、資源価格の反発などから、新興国の輸出が回復し、新興国経済が改善基調にあることが挙げられます。経済指標と市場予想との乖離幅を指数化したエコノミック・サプライズ指数をみると、今年に入り、新興国のプラス幅が大きくなっており(ポジティブ・サプライズ)、市場予想以上に経済指標の改善が進んだものとみられます。また、米トランプ政権の政策実施が遅れるなか、保護主義的な政策がトーンダウンし、米国金利の上昇や米ドル高の進行がひと段落したことも、新興国にとって追い風となりました。

主要新興国の状況を見てみると、ブラジルは、実体経済の低迷が続いているものの、インフレ率が低下しているほか、鉱工業生産や消費者信頼感の改善が続くなど、最悪期は脱したとの見方が出ています。ロシアは、ルーブル高などにより、インフレ率が低下しているほか、原油価格の反発と外需の持ち直しから、輸出が伸びたことで、緩やかな景気回復が続いています。インドは、7月に予定される物品・サービス税の導入など、構造改革進展への期待などから、企業景況感が大幅に改善しており、足元の設備投資や鉱工業生産も改善しています。中国は、インフラ投資の加速や堅調なサービス消費などを背景に、景気は底堅く推移しています。このように、主要新興国は、総じて景気の持ち直しが続いているとみられます。

今後のリスクとして、世界的な保護主義の広がりや、米国の利上げペースの加速、地政学リスクの高まりなどが挙げられ、世界景気の減速や金融市場の変動幅拡大につながる可能性があります。しかし、新興国の輸出の最終需要地である米国や中国などの輸入は、昨年後半から伸びが続いているほか、新興国のファンダメンタルズには改善がみられることなどから、新興国株式のさらなる上昇が期待されます。

新興国株式と先進国株式(米ドルベース)の推移

(2016年1月初～2017年4月28日)



※新興国株式:MSCI エマージング・マーケット指数

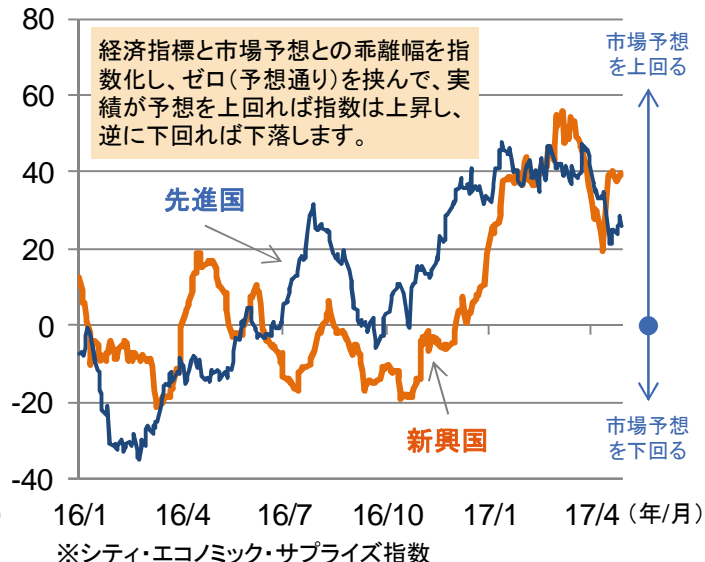
先進国株式:MSCI ワールド指数

新興国通貨:MSCI エマージング・マーケット・カレンシー指数 (信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

エコノミック・サプライズ指数の推移

(2016年1月初～2017年4月28日)



※シティ・エコノミック・サプライズ指数

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。